

群馬県立中之条高校環境工学科の課題研究環境班では、中之条町の青山地区と連携をして活動を行っている。青山地区には、建物や家屋が若干多いものの、水田に囲まれ、たくさんの生き物が生息している自然観察池がある。主に生息している生物は、トンボ、カエル、ドジョウ、コオイムシ、メダカなど、中には群馬県の準絶滅危惧種に指定されている生き物もいる。もともとは田んぼとしても使用できない荒れ地を、平成18年度からの歴代の先輩方の努力により、現在では多種多様の生き物が生息している、青山地区のオアシスとなった。

そこで私たちは、多種多様の生き物が生息している中、とても身近な昆虫であるトンボに興味を持ち、たくさんの種類や、興味深い習性をもつトンボを調査することによって青山地区に貢献したいと思い、トンボのマーキング、種類の調査、移動経路調査などをして深く調べ始めた。

写真1

青山地区の自然観察池と田園風景である。町の近代化が進むにつれ、人工建造物が増えていくなか、昔ながらの田園風景が残されている。中之条町にとって貴重な場所であり、自然観察することに関してはうってつけの場所である。

写真2

自然観察池の付近でヤゴを発見した。ヤゴはトンボの幼虫である。このヤゴのように、この青山地区では、たくさんのヤゴが成虫になろうと、懸命に生きている。

写真3

孵化のときが訪れた。このヤゴは、これからどのように生活していくのだろうか。ヤゴからトンボへと成長を遂げたとき、新たな人生がスタートする。

写真4

立派なトンボになった姿である。これから、このトンボは子孫を繁栄させていくために、大空へ飛び立っていく。そして、トンボはこのサイクルの中で生きていくのである。

変わりゆく季節の中で、青山地区には様々な生き物が生息している。この自然を守っていくことが、中之条町環境工学科課題研究環境班に課された課題であり、この様な自然を守っていくことが、私たちに課された使命である。